資料1

第７回検討会における主なご意見

国土交通省

第７回検討会における主なご意見

国土交通省

１．背景や根拠を丁寧に解説する情報の体系整理について

- 「24時間降水量等が記録的となった場合の情報」の「等」には、過去48時間や72時間の降水量　が記録的となった場合も含まれているものと理解している。長時間大雨が継続した場合、土砂災害の危険度は高まるため、24時間降水量と併せて情報提供の検討をしてほしい。
- 災害発生との結びつきが強い記録的短時間大雨情報及び顕著な大雨に関する気象情報については、「極端な現象を速報的に伝える情報」という位置付けで「簡潔な情報」に寄せて、よりプッシュで出される整理となったことは歓迎したい。
- B-1（A-1と結びつきが強い情報）とB-2（A-2と結びつきが強い情報）とでは質が違うように感じる。記録的短時間大雨情報や顕著な大雨に関する気象情報などのB-1は、警戒レベル相当情報と結びつきが強いというよりは、避難が必要な状況や現象をきちんと説明している情報といえるのではないか。
- A-2の情報に用いている「A-1以外」という表現が軽く感じる。「A-1以外」ではなく、屋内退避等を中心として行動を求めている情報という積極的な位置づけとするのが良いのでは。その上で、どのような情報がトリガーとなって、大雪警報や雷注意報などA-2の情報の情報収集に入るのかを考えていった方が良いだろう。

第７回検討会における主なご意見

国土交通省

２．防災気象情報の名称について　～警戒レベル相当情報の名称検討～

【一般・市町村向けアンケート結果に対するご意見】

- 住民の避難に資するかという観点からすれば、市町村向けのアンケート結果は参考として捉え、一般住民向けのアンケートを重視した方が良いと考える。
  「土砂災害」と「土砂」のどちらが良いかという解釈については、単純に短い名称が良いということではなく、言葉の接合によって解釈が変わってくることも踏まえて議論する必要がある。
- 警戒レベルの運用開始から５～６年経過しているにも関わらず、警戒レベルの意味を詳細に理解している人の割合が42.2%というのは低いと捉えるべき。一方、警戒レベルの数字が高い方が危険度も高いという認識は定着していることが分かったため、明確に意識して議論した方が良い。
- アンケートの自由回答の記述として特徴的なのは、「相当」や「情報」が分かりづらいという意見ははっきりしており、「相当」や「情報」という言葉をどう扱うかはきちんと議論すべき。また、「氾濫」の方が「洪水」よりも分かりやすいという結果もアンケート調査で明確に表れている。
- 土砂特別警報レベル５や高潮特別警報レベル５などが良いという回答が高い割合となっており、現象を２文字として「特別警報レベル」を加える案が一般住民から評価が高いという結果を踏まえて議論する必要がある。
- アンケート結果によると、レベルの数字が分かりやすいという意見がある一方、数字だけだと具体的な危険度が分からないといった意見もあった。まずは数字を前面に押し出して、その後に「氾濫発生」といった状況がわかるワードを組み合わせるのが良いのでは。
- アンケート結果から、「警報」と「特別警報」は意味が別のものとして理解されていること、警戒レベルの数値が有効であることが明らかとなった。文字だと人によって受け止め方が違うという意見もあり、情報名称には警戒レベルの数値を付けるのが良いのではないか。ただし、一気に変更すると混乱が生じるという意見もあり、段階的に数字を中心とした体系に整理していくのが良いのではないか。

第７回検討会における主なご意見

国土交通省

２．防災気象情報の名称について　～警戒レベル相当情報の名称検討～

【名称に用いるワードに関するご意見（全般）】

- 切迫性を直接的に伝えられる方が良く、これまで浸透している警報や特別警報という言葉は残した方が良いと考える。
- 「警報」や「特別警報」という言葉は住民にも浸透していることが分かったので、浸透している言葉は残すべきと考える。警戒レベル相当情報には位置付けられていない暴風や大雪の警報等との統一性の観点でも「警報」や「特別警報」はあった方が良く、レベルの数字が付記されている方が伝え手の立場としても伝えやすい。
- 警戒レベル相当情報以外の注意報、警報、特別警報が残ることになるので、注意報、警報、特別警報は新しい情報の中でも尊重すべき。
- 警戒レベル５相当情報については、予測ベースで出している情報と現認できる情報は何らかの形で区別した方が良いのではないか。特に警戒レベル５相当については情報の確度を何らかの形で伝えるべきではないか。
- 言葉の横並びの議論において、洪水を「氾濫発生」とし、土砂災害を「特別警報」とした場合に表現が異なってくるが、発生情報を発表できる現象と発生情報を発表するのは現状極めて難しい現象の違いがあるので、そこは必ずしも横並びで言葉が合っていなくても良いのではないか。
- レベル３相当とレベル４相当が同じ「警報」となる分かりにくさはあるが、アンケートの結果も踏まえると「レベル３」「レベル４」と付けることである程度一般の方にも理解できるのではないか。
- 「氾濫」と「大雨」と「高潮」は現象を表しているが、「土砂」は現象を表していない。伝える立場としては、「土砂災害」の方が報道しやすい。
- 「土砂」だと何が起きるのかが分からないため「土砂災害」とするのが良いのでは。
- 情報名称中の日本語の文字表現にいくら手を加えても伝わらないものは伝わらない。「簡潔に伝える情報」という枠組みを目指すのであれば、それにふさわしい情報名称とすべき。

第７回検討会における主なご意見

国土交通省

２．防災気象情報の名称について　～警戒レベル相当情報の名称検討～

【名称に用いるワードに関するご意見（警戒レベルの数字について）】

- 示された情報名称案では、日本語の漢字が警戒レベルの数字より先に置かれている。馴染みのある特別警報や警報などをもし用いるのであれば、まずは警戒レベルの数字を前面に立ててグレードを示し、その後に特別警報等を付けるべき。
- 「レベル」を前に出した方が良いのでは。例えば、「大雨レベル５特別警報」のように入れ替えることも一案である。
- 現状、警戒レベルが浸透していないことを踏まえると、危険性が分かる文字と警戒レベルの数字を両方含めるのが良いのではないか。アプリの通知では、「特別警報」「警報」等の文字の印象の方が強く、「５」のような数字は読み飛ばされてしまうおそれもあり、警戒レベルの浸透という目的は果たせないと考える。
- 将来的には警戒レベルの数字だけで行動をとってもらうことが望ましいが、現状において、警戒レベルの数字だけとするのは乱暴であり、今回の整理においては浸透している情報名称にレベルの数字を付記するのが良いと考える。
- 将来的に警戒レベルが浸透すれば、数字だけでも良くなるかもしれないが、現段階では、レベルと数字がメインにきて、その後に状況を付け加えることで良いのではないか。

第７回検討会における主なご意見

国土交通省

２．防災気象情報の名称について　～警戒レベル相当情報の名称検討～

【名称に用いるワードに関するご意見（「相当」のワードについて）】

- 名称を考えるにあたって、警戒レベル相当情報の持つ位置づけを共有した上で議論をする必要がある。受け手にとっての分かりやすさ、行動へのつながりやすさという観点で、レベルに応じた数字を導入するのは良い案と感じるが、警戒レベルは、避難をする、しないという行動に結びつけるために、避難指示と関連付けて導入してきた経緯がある。それを踏まえると、警戒レベル相当情報の名称には「相当」というワードを付けるべきと考える。
- 警戒レベル相当情報が警戒レベルと違うことを示すのは大事だが、「警戒レベル相当情報」と聞いても一般の人は理解できない。警戒レベルとは異なることを示すために、数字を残しつつ「気象災害レベル」「防災気象レベル」といった言葉で読み替えて警戒レベル相当情報を説明するのが良いのでは。
- 警戒レベル相当情報の「相当」を情報名称に付けたからといって一般の人は分からない。特に重視すべき事項としては、住民にいまどの段階なのかを分かってもらうことであり、結局無視されるのであれば「相当」は無い方が良い。
- 発信者側の論理や経緯があることは理解するが、警戒レベル相当情報の「相当」が情報名称に含まれていると、警戒レベルとは別の行動をとらなければならないと考えてしまうおそれもあり、警戒レベルの浸透の妨げにしかなっていないのではないか。
- 警戒レベルの運用が開始されてから５年が経過しているが、情報を受け取る住民が理解できないという意見が多数を占める事実は重く受け止めるべき。警戒レベル相当情報の「相当」が付くことによって、警戒レベルの分かりにくさを助長している面は否めないのではないか。
- 「相当」という言葉は情報名称の中では強調しなくても良いと考えるが、避難情報と異なる位置付け、枠組みは維持すべきと考える。
- 警戒レベル相当情報は避難情報とは違い「自ら行動をとる際の判断に参考となる防災気象情報」であることは、実際の大雨時に発表された情報名称の中で理解してもらうようなものではないのではないか。情報名称の中では「相当」は用いるべきではないと考える。

第７回検討会における主なご意見

国土交通省

３．防災気象情報の名称について　～解説情報の名称検討～

【顕著な大雨に関する気象情報について】

- 現状の「顕著な大雨に関する気象情報」は、線状降水帯による大雨時にのみ発表される情報のため、キーワードは「線状降水帯」で良いのではないか。
- 顕著な大雨に関する気象情報に該当する情報名称は「気象速報(線状降水帯発生)」で異論ない。

【記録的短時間大雨情報について】

- 記録的短時間大雨情報については、「短時間大雨」というキーワードでこれまで伝えていた切迫した状況が伝えられるかという点で疑問がある。「記録的」という言葉をキーワードに盛り込むことで、数年に一度の滅多に起こらない状況が発生していることを伝えられるのではないか。
- 「記録的短時間大雨」という言葉は定着しているので残してもよいのではないか。
- 情報名称としても「記録的短時間大雨」は存置して、「気象速報（記録的短時間大雨）」などとする方が良いと考える。「短時間」ではどの程度の時間軸か伝わらないという意見もあったが、定着しているワードでもあるので「短時間」を引き続き使うことで良いのではないか。

【竜巻注意情報について】

- 竜巻注意情報のみ予測が含まれており、かつ確度がほかの情報と異なるため、「気象速報（竜巻予測）」という情報名で発表していくことに若干違和感がある。
- 「気象速報（竜巻予測）」について、「予測」というキーワードを用いることに違和感がある。「竜巻予測」ではなく、現在の情報名称を活かした「竜巻注意」というキーワードとするのが適切ではないか。また、そういった情報の内容を教育・周知することとセットで名称変更を実施する必要があるのではないか。
- 竜巻が発生したことと、竜巻が発生する確率が高い状況下で発表されたことの両方が伝わる情報名称とするのが良いのではないか。

第７回検討会における主なご意見

国土交通省

３．防災気象情報の名称について　～解説情報の名称検討～

【「気象速報」について】

- 「気象速報」では切迫性が伝わらないと考える。より切迫性をストレートに伝える名称として「緊急大雨速報（線状降水帯）」「緊急大雨速報（短時間大雨）」「緊急大雪速報」「緊急竜巻速報」といった情報名称も考えられるのではないか。
- 「気象速報」は一般名詞として社会で使用されており、気象庁が用いるときだけ固有名詞となってしまうと、情報の出し手と受け手の認識に齟齬が生じないか。気象庁特有の名前であることが伝わるような情報名称とする工夫があるとよい。
- 「気象速報」という名称も、もうひと工夫あっても良い。「噴火速報」などのほかの情報との整合性を重視しているのかと思うが、例えば「防災気象速報」といった名称も考えられるのではないか。